

## 令和5年度 第2回亀山市図書館協議会 会議録

日時 令和5年11月27日(月) 午前10時から午前11時30分まで

場所 亀山市立図書館1階 多目的室

出席委員  
岡野 裕行委員  
井戸本 吉紀委員  
稲ヶ部 明香委員  
横山 正委員  
原 美津子委員  
川辺 一弘委員  
服部 しづ子委員  
川口 恭子委員  
下重 智子委員

欠席委員 田中 愛子委員

事務局  
亀山市教育委員会  
教育部長 亀山 隆  
図書館 館長 井上 香代子  
図書館 主幹 山川 美香  
図書館 主査 佐々木 孝英  
図書館 主事(司書) 天野 史菜

### ■開会

#### 1.あいさつ

#### 【事務局】

令和5年度第2回亀山市図書館協議会を開催する。  
本協議会は、「亀山市立図書館条例」に基づき開催する。

#### 【事務局】

まず、議題に入る前に、報告事項を申し上げる。

田中委員は欠席となる。

学校図書館アドバイザーとして活躍をされてみえる川口委員が、10月に第54回中日教育賞を受賞されましたので、お喜び申し上げるとともにお知らせする。本日、図書館運営業務委託事業者である(株)図書館流通センターのスタッフが傍聴させていただく。

(資料の確認)

#### 【事務局】

事項書に基づき、会議終了は11時30分を目途に進めさせていただく。

続いて教育長から挨拶を申し上げる。

【教育長】

あいさつ

【事務局】

教育長は公務のため、ここで退席させていただく。

ここからの進行については、亀山市立図書館条例施行規則第7条第2項の規定により、岡野会長にお願いする。

## 2. 協議事項

### (1) 亀山市立図書館運営にかかる評価について

【事務局】

事務局より説明

【服部委員】

「資料3 ②図書館サービス実施計画を着実に進めます。」という欄の下の「人材育成による職員の能力向上」の項について尋ねる。研修回数や職員研修人数だけでは不十分。研修の中身やその効果を計る指標が必要。

地方公共団体の年度末の人材評価システムに参考になるようなものはないか。

【事務局】

社会的変化の成果に書き示すような形で考えている。研修内容を共有する場を設けるよう考えているが、それを文章として残すよう、検討する。

職員の評価については、資料2で示した図書館実施方針を職員の目標とし、達成できたかを人事評価の中で評価している。

【井戸本副会長】

資料3の研修について、職員研修で、市職員と委託業務事業者が双方で、担当業務に関する研修に参加するようにし、互いに共有する研修計画を策定してはどうか。

「市民交流」について尋ねる。「②-7 活動回数」は「市民交流」に入るので、一つにまとめてはどうか。

「①-3 業務統計 3 貸出点数」に居住地別や年代別などの数値を出すと良い。

【事務局】

ご意見を受けて、修正加筆する。

【川辺委員】

アンケートは年1回でいいのか。

アンケート内容項目は検討させてほしい。

居住地別利用者数は、図書館整備推進委員会でも話があった。

駅前移転後はどう変化したのかを出してほしい。

どの方向に力を入れるべきかが見えてくる。

【事務局】

今回の活動指標等を参考にしながら、速やかにアンケートはさせていただく。

また居住地別の統計は出せる。整理をしていきたい。

【原委員】

図書館ボランティア団体「2-⑦活動回数」について

回数にこだわらず、定着にも目を向けてほしい。

【事務局】

参考にさせていただく。

【川口委員】

この協議会の場合は、一問一答の場じゃなく、議論の形としたい。

利用者の声は年一回のアンケートもいいが、普段から、声のポストを設置してはどうか。

図書館主催のイベントの回数を入れるべきではないか。ボランティア主体に焦点が当たりすぎている。

【井戸本副会長】 図書館主催のイベントで満足度のアンケートをとったらどうか。

【横山委員】 アンケートだけでなく、一般の人からの生の声も聞くようにしてほしい。

【井戸本副会長】 レファレンスについての評価に対する意見である。国立国会図書館レファレンス協同データベースにレファレンス解決事例を公開していったらどうか。

【事務局】 レファレンスのデータベース化については、図書館サービス計画に指標として上げている。まず先に、当館のホームページ上で公開を予定している。

【岡野会長】 国立国会図書館レファレンス協同データベースは全国のフォーマットに則っている。亀山市が対応したことが目に見えるようになる。

【井戸本副会長】 フォーマットは沿わせておいて、全国に公開できるものだけ出していけばどうか。

【事務局】 図書館情報システム上に、回答事例の積み上げをしている。解決に至っていないのも一部ある。

図書館ホームページでの個別公開から、国立国会図書館のデータベースに載せるよう、段階を踏んで公開していく考えていきたい。

【川辺委員】 検討しているレファレンスがいくつあるのか。

【事務局】 受けているレファレンスのうち、回答事例はいくつある。内部情報として積み上げて整理している。解決しているレファレンス事例もある。

【岡野会長】 「③蔵書計画に戻った、図書資料の収集や保存」についての意見である。年間の購入冊数、コンテンツ数等の蔵書状況等のインプットの項目を多く入れてもよいと思われる。

【井戸本副会長】 予算確保の資料としても使えるため、インプットの項目もあっていいと考える。

【岡野会長】 寄贈はどのくらいだったか。

【事務局】 年間 800 冊程と記憶している。年によっても違う。

【川辺委員】 レファレンスサービスについてもっと周知が必要だろう。亀山市民はレファレンスについてほとんど知らない。図書館を使ってもらうことに重点を置いてほしい。

また、開架の資料の並びが分かりにくいと前々から言っている。市民からの声がどのように反映されているか、図書館はこんなことができるんだなっていうのを広げてもらいたい。要望を解決していく経緯を表に出していくと、一緒に図書館を育てていけるっていう意識が広がっていく。

【岡野会長】 ケーブルテレビ等で周知してはどうか。

【井戸本副会長】 広報かめやまの図書館のページにも載せて、ホームページへも誘導する

等、周知を強化してはどうか。

【事務局】

レファレンスについては、非常に課題と認識している。

電子図書館サービス等の周知は、マイタウン亀山での周知も行っている。

来年度以降もマイタウン亀山での情報提供は継続する予定である。

ニューズレター等においても情報発信をしていく。

【川辺委員】

業務委託について尋ねる。

導入時は、委託業務事業者の専門性の高さを理由に挙げていた。

目指した形になっているのか、評価していく必要がある。

【事務局】

当館がレファレンスや情報発信が弱いのは認識している。

これは積み上げが必要な部分になってくる。

委託業務事業者に限らず、もともと市職員側も弱いという認識である。

委託契約の問題については、数字で一応評価はするが、その値をもって、公共図書館としてのあるべき姿に近づいているのかという分析をしていくことが大事になる。

公共図書館のあるべき姿を評価として示していき、現状を把握し、それで次の改善につなげていく。

【岡野会長】

レファレンスという言葉がやっぱり一般にはなかなか馴染みがない。

パスファインダーなども同様、図書館側にとって基本的に使う言葉を含め、利用者目線で考えると変わってくるかと思う。

【川辺委員】

ぬいぐるみのお泊まり会などのイベントでも、他の図書館を参考にしたという広報の仕方にするとう研修などの結果が活きていると伝わる。

【事務局】

参考にさせていただく。

【岡野会長】

情報発信で、出した回数だけでなく、利用者へ届いた見込みの数字も出すと良い。

【岡野会長】

来年度の第1回図書館協議会については評価の資料を提出する予定で進めたい。今年度の2月または3月に開催する第3回の図書館協議会で皆様に協議事項として、図書館評価についてまとめた資料案を示したいと考えている。

## (2) 報告事項「一周年記念イベント」

【事務局】

事務局より説明

1月28日のワークショップについて尋ねる。

【井戸本副会長】

グループに分け、途中参加も可能な状況で意見を出す方法で行ってはどうか。

良い意見が出たら、市長や教育長への報告の場を設けると良い。

若い人だけでなく、交流のため、アイデアにあふれる大人にも来てもらう方が良い。

- 【川辺委員】 10月のイベントでは、知っている高校生にも声をかけたが、参加はなかった。先に声をかけておく必要がある。
- 【服部委員】 10月のビブリオバトルイベントは、一般参加者が自分だけだった。確実に人数が集まるように目星をつけておいた方が良い。
- 【川辺委員】 大市と同じ日のため、連携すると良かったのではないかな。ボランティア団体へももっと声をかけてくれると良い。
- 【川口委員】 中学生には3分間のミニビブリオバトルでも大変である。中学生は3分間、一般は5分間で混在するのはどうか。
- 【岡野会長】 時間の混在はあまり聞かない。発表時間は平等にしているため、それであればミニビブリオバトルの開催とすべきだろう。普及委員会の立場からすると、中学生も5分で行けるという想定である。
- 【井戸本副会長】 一般の人も3分にしたら参加しやすいかもしれない。人によっては時間を越えがちで、人によるのだろう。
- 【岡野会長】 前回・前々回のビブリオバトルは何人ぐらいの参加があったか。
- 【事務局】 5名定員として、8月の体験会ではデモンストレーションの形で職員が出ていた。観客入れて20名ほどだった。
- 【川口委員】 10月は、一般は1名だけで、職員が2名、計3名のバトルで観客も職員とか関係者を除いたら、一桁だったと思う。1回目だからだろうと思っている。うまく定着できるといい。
- 【岡野会長】 単発でやるよりは、イベントの中で組み込んでしまえば集客しやすい。
- 【川辺委員】 中高生がこれだけ使っているのに、イベントには参加が少ない。呼び込みや声掛けも必要になってくるのではないかな。
- 【横山委員】 亀山高校へ赴いて、声かけや呼び込みで協力することはできると考えている。
- 【岡野会長】 今回のビブリオバトルのテーマは「鉄道」か。
- 【事務局】 テーマは特に定めていない。
- 【岡野会長】 テーマを決めることで、聴講や参加が増える可能性もある。継続するつもりならば、テーマを定めていく方が良い。
- 【井戸本副会長】 ビブリオバトルとして集客するより、テーマに沿った本を、詳しい人に話してもらった方が人は集まるのではないかな。
- 【川辺委員】 ビブリオバトルをした後に、ブックトークイベントをすると良いのではないかな。
- 【岡野会長】 「お坊さんビブリオ」など、職業やターゲットを絞って人を集めるやり方もある。
- 【井戸本副会長】 亀山ブランドの関係者に参加してもらおうのもどうか。店の紹介にもつながる。
- 【岡野会長】 テーマの解釈はそれぞれとなる。
- 【川辺委員】 テーマを決めると、テーマに関心のある人は参加する。
- 【服部委員】 参加した時、紹介する本を選ぶのが難しかった。テーマがあった方が絞りやすい。

【井戸本副会長】 学生の学習利用のため、平日と土日で学習スペースの設定を変更できないか。  
座席予約の更新のたびに紙レシートが出るのも、環境面から見るとどうか。  
施設は充実しており、自主勉強する環境がすごく良くて飲食できるスペースがあっている。

【事務局】 運用方法の設定については検討させていただく。

#### 4.その他、お知らせ

【委員】 次回から資料の送付はメール送付で構わない。

【事務局】 次回の協議会の開催は、令和6年2月または3月の開催を予定している。

【閉会】